



わがままと自由の違いはどこにあるのか

「自由」という言葉から、子どもたちの連想を聞いてみると、次のような感じでした。

「夏休みとか、時間的な決まりがなく、自由～って感じです」

「自分の部屋に戻った時に、自由って感じがします。誰かに言われてするのは不自由」

なるほど。どちらかという、他者が周りにいない状況の時に自由を感じる人が多いようです。さらに、子どもたちはこれらの言葉につなげて話をしていきました。

「いや、これだと『わがまま』みたいな感じがする。自由って、もうちょっと責任とか？」

「誰もいない一人っきりって、自由というより『孤独』って感じでよくないなあ」

確かに。人は社会の中で生きていくもの。時には一人になって、ゆっくり自由を謳歌するのも大切ですが、むしろ、これを社会の中でやるとわがままになるという指摘はさすがです。

では、自由とは？わがままとの違いとは？

「リービヒの最小律」という言葉があります。植物の成長速度や収穫は、必要とされる栄養素のうち、与えられた量の最も少ないもののみ影響されるという説だそうです。それをわかりやすく表現するものとして、ドベネックの桶（右図）というものがあります。数枚の板で作られる桶は、水をためるためのものです。しかし、図を見てわかるようにどんなに長い板があろうとも、間違えなく一番短い板の分しか水をためることができません。このように、植物の成長には与えられた量の最も少ないもののみ影響される、というわけです。



これを人と人が集う集団だと考えてみると、どうでしょう。どれだけ一部の人が頑張っても、たった一人でも手を抜くと、集団としての達成度は最小のものにしかならない。

私事で恐縮ですが、ふと運動会などの活動で、朝練などに取り組んでいる私が以前に担任した子どもたちのことを思い出しました。優勝を目指す子どもたちは「朝練」に参加しない友達に、文句があるようでした。まさにドベネックの桶状態。あなたたちが頑張らないから、学級が弱くなる！負けちゃう！というわけです。しかし、参加しない子どもたちにも「不参加も自由のはず」との言い分があります。どちらも引かず、話は平行線。

それはそうでしょう。両者の主張は、いわゆるわがままにとどまっている。どんなにいいことを言っても。そこに、くみさん（仮名）が登場して、次のように述べます。

「学級目標の『協力する』を達成するためには、どうすればいいの！！」

わがままとを言い合っていた当時の子どもたちは、はっとさせられます。というより、私自身が撃ち抜かれた思いでした。その後、「協力」を目指した活動として、新しい目標「運動会の係活動を精いっぱい頑張る」になったことにも感動しました。（ちなみに、その年の運動会は、本学級が優勝しています。これがまた不思議なところですが。）

大きな目標をめざした仲間とのあくなき探究活動の中で、自由は謳歌されるのです。